

低年齢児の住空間理解 (その1) 描画表現にみる特徴

○北浦かほる* 萩原美智子**

(*大阪市大, **大手前女子短大)

1 はじめに 模型空間を用いて空間認知の実験を行ってきたが、本研究では模型表現の効果を検証するために描画による空間認知の実験を行い、その特徴を把握することを試みた。子供の絵は8~9歳頃になると見えるとおりに描く視覚的写実期に移行し、それ以前は知っていることを描く時期で描きやすい所から見たものをひとつの絵に合成して描く知的写実期であるとされている。ここでは住宅の内部空間を絵で説明するように求め、描画の特徴から子供の空間理解の過程を明らかにしている。

2 実験概要 実験は1998年8月~10月に、4~8歳の31名を被験者として保育園及び学童保育所で実施した。実験は「ここに○○ちゃんのお家の中がどうなっているのか絵に描いて教えてください。」と指示して、画用紙(54cm×38cm)に鉛筆で描かせた。絵を描く順序や何を描いたのかを記録し、完成した絵をもとに分析を行った。

3 考察 絵を描き始めるまでに時間がかかった子供もあり、所要時間は5~46分と個人差が大きかった。また「かかれぬ」と言った子供がおり、描画は子供にとって負担が大きいことが確認された。描画で表現されたものは年齢によって変化し、幼児では人・動物や家具・物だけを描く場合が多いが、小学生になると部屋の領域や部屋構成も表現するようになる。個々のエレメントは、その特徴が最も現れる角度から描かれているが、空間構成の表現は3次元空間を2次元にする手法で分類できた。また、発達の初期段階では空間エレメントを描き連ねるだけであるが、次に立面や断面で部屋を表現するようになっている。小学生になると平面的に部屋構成を表現する子供が多い。